

(腎センター) 丸尾亜莉沙

1975年11月現在、当腎センターにおいて18例の腎移植施行。そのうち3例に、移植後、大腿骨、骨頭壊死の発症をみている。

今回、われわれは、壊死群および非壊死群各3例につき、ステロイド投与量、投与方法に関し、若干の検討を行なった。

壊死群は非壊死群に比して、明らかに投与量が多く、体重当りの投与量は、骨頭壊死発症時には200mg/kg以上になっていた。

投与方法と壊死との関連は見られなかつたが、投与期間との関連については、断定不能であつた。

今後、こうした重篤な合併症を予防するためにも、ステロイド投与量の再検討を行う一方、骨頭壊死早期診断法の確立に努めたいと、考えている。

#### 9. 新生児胃穿孔について

(一般外科)

○小島幸次朗・磯部 文隆・岩崎 裕・  
馬淵 原吾・鈴木 忠・倉光 秀麿  
織畑 秀夫

新生児胃穿孔は、新生児の消化管穿孔の中でも圧倒的多数を占め、非常に死亡率は高く、きわめて予後の悪い疾患である。われわれは、最近救命せる1治験例を報告すると共に、文献的考察を加えて報告する。

症例は生下時体重3,450g、正常分娩で、予定より9日早く誕生、生後3日目より哺乳不良、腹部膨満出現し、4日目より、チアノーゼ、腹部膨隆増強し、単純腹部立位 X-P にて、両側横隔膜下に気腹像を認め、新生児胃穿孔の診断の下に緊急手術を施行、胃前壁大弯側寄り胃底部より胃体部にかけ約8.0cm×3.0cmの穿孔部あり。2層縫合閉鎖、胃瘻造設、幽門形成、ドレナージを行い、術後抗生剤大量投与と肺合併症の予防に努め、術後4日目よりチューブ栄養を開始し、経過良好にて術後20日目にて退院した。